

民俗芸能の映像

—— 渋沢による 16 ミリフィルム「花祭」の位置づけ ——

西郷由布子

1 はじめに

1930（昭和5）年4月13日、三田綱町の渋沢邸改築記念に中在家の花祭が上演され、その翌日にもう一度花祭を再現してもらって16ミリフィルムの撮影が行われた。また、1934（昭和9）年に北設楽を訪れた際にも渋沢は中在家の花祭の様子をフィルムに収めている。これはアチックにおける初めての本格的な映像記録であるという。本稿ではこの2本のフィルムの位置づけを考える。

民俗芸能の研究にあたる時、映像の持つ意味は小さくない。多くの民俗芸能の報告書などからは、行事の次第や衣装などの詳細はわかるが、そこで行われている舞踊の芸態や場の様子などを思い描くことは難しい。その点早川孝太郎の著書『花祭』は例外的存在かもしれない。小林康正が湯ばやしに関する記述⁽¹⁾で、「早川の民俗誌家としての天才に感謝しなければなるまい」と述べているように、「昭和初期の湯ばやしの状況と雰囲気を知りたくしてつたえようとしたかれの筆致は秀逸で」ある。小林が引用している湯ばやしの描写の一部をここにも引いてみよう。

「今やっているのが袖しほりだ、もうすぐ鳥跳びだ、鳥跳びにかかったら湯を振り掛けられるぞ、そら片手湯立てだ、束子を湯に入れたなどと一時に浮きだしたさいに、わっと揚る歓声とともに、さっと昇る真白な湯煙り、生温い湯沫がもう顔へ飛んで来た。われがちに遁げる、馳け出す、拍子はいっそう急になって、太鼓を打つ者は懸命に叩いている。四辺は狂乱の渦中である。濛々と昇る湯気の中を束子を昇いで舞子が走る、遁げた見物がまた引き返してくる。歓喜の頂点ともいふべき光景は、こうしたものではないだろうか、一面に湯を浴びせられる、浴びせられては堪らぬ、そういつて浴びたくもあるのだ。」⁽²⁾

早川の著書には加えて湯ばやしの写真と早川のスケッチとが添えられており、たしかにそれは、「我々が見聞できる現状から推し量ってみても、当時の姿を相当程度まで再現するのに成功している」といえよう。しかしながら、一度でも花祭を見聞したことがあるものならば、早川の記述からまざまざと舞処の沸き立つような喧噪を脳裏に思いおこすことができようが、花祭を見たことがない者にとってはやはり限界がある。渋沢敬三が花祭をフィルムに収めた意図のひとつもそこにあったのであろう。

今日ではビデオ機器を携えて民俗芸能の現場に赴くのは当たり前のようにになっているが、それもここ数十年のことだ。ましてや2本の16ミリフィルムが撮影された昭和初期は、私的に動画の撮影をすることはそれほど一般的ではなかった。昭和3年2月発行の『民俗芸術』に「古芸術の保存とその映画化」という題目があり、町田嘉章「私の撮影した踊のフィルムに就いて」、仲木貞一「撮影機の利用に就いて」という二文が載っている⁽³⁾。それを見るとこの時期すでに「各地方に今や辛うじて残存する類の舞踊、その他の年中行事の儀式を、なんとか方法を見出して、これが保存に努めなければならぬ」と、民俗芸能の記録保存が叫ばれ、それには映像が大きな役割を果たすであろうことが示されている。そ

して、文章の末尾には目録作成のため各地の舞踊を映像化したものの情報提供の呼びかけが付されている。

町田は「絵は如何に美しく、よく画けてみても、動きがないのですから、踊と云ふやうな題目に対しては隔靴搔痒の嘆があります、若し動きのまゝに記録が残し得るならばとは誰しも考へる所で活動写真が自分の手で撮影出来るものなら」と、大正の終わり頃から撮影機をいじりはじめたと語っている。最初に撮ったのは、大正12年7月下旬の王子稲荷の田楽祭（百尺ばかり）で、その後東照宮の東遊、明治神宮の舞楽、九州の幸若舞、佐渡各地の舞踊、島田の鹿島踊、秋田おぼこ、仙台ハットセ、さんさ時雨、渡島甚句、秩父金崎神社獅子舞、各地の盆踊などを撮影したという。しかしながら、16ミリフィルムの撮影が当時はまだ気軽に行えるようなものではなかったことは、町田が次のように記していることから察せられる。「フィルムを作るのに金のかゝるには閉口しました。今日でも左うですが現像焼付共に人頼みなのですから一尺写すのに二十五銭から七八銭はかゝるので、百尺写すと二十五円、千尺作ると二百五十円です。」ちなみに大正末年の物価では、銀行の初任給が50～70円、巡査の初任給が45円、慶応大学の年間授業料が120円であった⁽⁴⁾。そう考えると、渋沢が花祭だけでなくいくつかのフィルムを撮ったのはやはりその財力に拠るものも大きかったのだろう。

2 民俗芸能の映像

では、民俗芸能の映像はどの程度まで時間を遡ることができるのだろうか。前述の昭和3年の『民俗藝術』の記事には、活動写真を実際に撮っている人として町田のほかに、田辺尚雄（東洋音楽）、三島章道（舞踊、演劇）の名が上がっているほか、日本青年館所蔵のもの（川越の獅子舞、越中のムギヤ踊、佐賀の面浮立、江州音頭、相馬流山踊、佐陀神楽、松代の大門踊、香川の念仏踊）があると記されている。

また、「映像人類学関連年表」（吉岡健司・村尾静二編）⁽⁵⁾によると、民俗誌的な映像が撮影されはじめるのは1890年代あたりからだが、この時期の日本関連の映像は外国人の手で日本舞踊やアイヌ文化を撮ったものだ。日本人の制作として最初に登場するのは、1925年の八田三郎「白老コタンのアイヌの生活」で、その翌年の1926年の項に渋沢敬三の「台湾」があがっている。1930年代には渋沢の「花祭り綱町邸」、宮本馨太郎「奥利根の流れ」「うちのは出来るまで」「伊豆半島」があげられ、このあたりから渋沢、宮本をはじめとする日本人による作品がいくつか登場するようになる。

研究用などで個人的に撮影されたものに関しては追跡のしようがない部分があるが、なんらかの機関によるものとしては、戦後すぐから岩波映画がいくつか民俗芸能のフィルムを撮っている。岩波映画製作所の設立は1950年。「岩波映画には初期のころから美術工芸、民俗への熱いアプローチがあった」らしく、羽仁進の演出で1953年から54年にかけて「雪まつり」と「花まつり」の撮影が行われた⁽⁶⁾。また渡辺裕によると、宝塚歌劇では1958年から20年にわたって各地の民俗舞踊をレビュー化した「日本民俗舞踊シリーズ」が上演されており、この制作のために「日本郷土芸能研究会」が作られ、各地の民俗舞踊の大規模な調査収集活動が行われた。毎年平均20回の取材旅行、20年の間にフィルム1300巻、カラースライド1万5千枚、ネガ9万枚、録音テープ2000巻の記録が残っているという。渡辺

の言うようにこれは「舞台のためだけの材料集めという範囲をはるかに越え」たもので、「それをバックアップし続けた歌劇団や親会社の阪急電鉄の器量の大きさも大変なもの」である⁽⁷⁾。1980年代以降は、早稲田大学演劇博物館、ポーラ伝統文化財団、神語り研究会などの機関で花祭のフィルムが撮られているが、この時期は個人によるビデオ撮影もすでに一般的なところである。

こうしてみると、渋谷の撮ったフィルムは民俗芸能の映像としても、奥三河の花祭の映像としても、ごくごく最初期のものであるといえるだろう。

3 16ミリフィルム「花祭」

2本のフィルムの内容は下記のようにになっている（「」内は映像で用いられているキャプション）。いずれもタイトルは「花祭」で、音声は入っていない。

①〈花祭 綱町邸 1930年〉15分弱

冒頭で述べたように、フィルムは改築記念の翌日に撮影のために再度演じてもらったものを写したものだが、後で見るように、それ以外の映像が混入しているように思われる。

「祭具」ビヤッケ、ヒイナ、ハナガサ、ユハギ、槌などの祭具の紹介。

「瀧祭り」綱町邸の庭の一部の小さな滝を前に行われている。

「辻固め」

「高嶺祭り」⁽⁸⁾

「楽座」2、3名の笛吹と太鼓打ち。

「花の舞」庭での撮影である。釜は設えられておらず、その代わりに目印かと思われる小さなお椀が据えられている。男子三人の舞。舞はこのあとのものも含め、いずれも断片的にしか映されていない。

「三ツ舞」やちごまの手のようなのだが、映像が暗い。花の舞が庭での映像なのに対して、こちらは屋内か半屋内のように見える。他にも薄暗い屋内と見られる映像が混入しているので、翌日に再現したものではなく改築記念当日の花祭を撮影したものが随所に挿入されている可能性もある。

「四ツ舞」ユハギの舞（庭）

やちごまの手（屋内）

「鬼の舞」庭で扮装をする様子から撮影されている。

「榊鬼」これも大きな面をつける扮装の部分から撮っている。

「おつるひやの舞」屋内らしい。

「茂吉鬼」湯気の上がる湯釜のある舞処。北設楽で撮った映像が挿入されているものと思われる。

「花祭とその著者」出版された二冊の本を手にカメラに収まる早川孝太郎。

②〈花祭 中在家花宿湯囃し 1934年〉20分弱

「三河北設楽郡にて」北設楽風景

「花宿にて」びやっけ、ざぜちなど舞処の様子

子供たち

高嶺祭り・辻固め

「ごへいもち」

道端の石仏、牛馬、民具、子供たち

舞：ハナガサをかぶった四人舞なので花の舞かと思われるが、舞手はかなり年配に見える。

ごへいもち

外の風景

三ツ舞

翁

神部屋：面の数々

湯囃し

集落の様子や子供たちの姿がフィルムの半分ほどを占め、舞にはあまり多くの部分がさかれていない。鬼も神部屋に置かれた面が写っているだけである。これは1930年撮影のフィルムに記録できなかったものを撮るという意図があったためのようだ。湯囃子の部分は4～5分間と他に比べてじっくり撮られており、先に引用した早川の記述のままの光景が繰り広げられている。

4 渋沢フィルムと今後の研究の可能性

最近の身体論を総体的に見てみると、日本人の身体あるいは身体意識の変革という点では、二つの契機が考えられる。一つは武智鉄二が「伝統と断絶」という文章で書いたもので、西南戦争の際に官軍が弱体であったのは、国民皆兵政策により当時の軍隊の大半を農民が占めていたからだといういわゆるナンバ説である。つまり農民の身体動作はナンバ(今のように右手と左足、左手と右足が同時に出る動きではなく、半身ずつ動く動きのこと)を中心にできあがっており、軍隊の集団行動としての行進、駆足、突撃、方向転換などができなかった。そこで富国強兵をめざして、当時の文部大臣森有礼が教育に兵式体操やマーチ(すなわち行進)のリズム感を養う音楽を取り入れた。それによって日本人の身体は明治を境に大きく変えられた、というものである。⁽⁹⁾

第二の契機は戦後の高度成長期における日本人の生活の急速な西洋化にある。鈴木忠志によれば、それは平均的な住宅から床の間と廊下がなくなったことに象徴的に表されるといえる。床の間の存在は空間に中心を作り、人は自分がどこに位置し、どう見られるかという意識をもたざるをえなかった。また、廊下は部屋の中に人がいるかどうかという気配を察し、人がいれば静かに歩かなければならない。その際は重心の水平移動が大事で、「下半身のコントロールと足裏の床への接触感覚が鋭敏であることが必要」となってくる。そして、こうした日本式の住空間において身につけられた身体感覚が、日本の舞台芸術を支える身体感覚の基本になっていたのだが、それが変わってきたのだという。⁽¹⁰⁾

このような身体や身体意識の変化を検分するにさいして、第一の契機に関しては援用できる視覚的史料は静止画像である絵画資料か写真だろうが、第二の契機に関しては動画を利用できる。実際に身体の動きを見ることが可能になるわけである。歌舞伎や能楽などの舞台舞踊においては昭和初期の映像はある程度残っているものと思われる。だが、民俗芸

能の場合は前章までに見たように、それほど多く戦前期の映像が残されているとは思われない。洪沢のフィルムの映像の舞踊と現在の花祭の舞踊とで比較を行い、その芸態や身体の運用法になんらかの差違を見出すことができれば、たいへん貴重な資料になりうるであろう。しかし、実際には洪沢のフィルムのなかの舞踊部分の映像は断片的で時間的にもそれほど多くはないために、視覚の上で差違を見出すのは難しく、今回は有効な比較研究にまでは至らなかった。このフィルムを実見した中在家の当時の舞手の家族親族の方のなかからは、今と舞い方が違うという指摘があったともいうから、そのあたりから追究していくことも可能かもしれない。また、舞踊あるいは身体以外のさまざまな要素についてももちろん比較が可能な部分があるだろう。いずれにしても今後の課題としたい。

注

- (1) 小林康正「花祭の誕生へ—民俗芸能における芸態的实践の生成過程について—」『民俗芸能研究』21号、1995、p.17
- (2) 早川孝太郎『早川孝太郎全集 第一巻』未来社、1971、pp.200-201.
- (3) 『民俗藝術』第1巻第2号、1928、pp.43-8. ちなみにこの文章が掲載された号の次の巻（昭和3年3月刊）で小寺融吉が昭和元年に花祭を見に行ったときの話を記した「前期国劇史上の舞台の意義—三河の花祭を見て—」という文章が掲載されている。
- (4) 授業料には実習費等は含まれない。週刊朝日編『値段史年表 明治大正昭和』朝日新聞社、1988
- (5) 伊藤俊治、港千尋編『映像人類学の冒険』せりか書房、1999、pp.172-185。年表に記載されているのは「人類学者が自ら撮影した研究用フーテージ〔編集されていない映像のこと：筆者注〕や自立した作品としての民俗誌映画に加え、映画監督が制作した民俗誌映画的な作品、あるいは人類学と映像文化の接点を考える上でなにかの示唆を与え得ると思われる作品」である。
- (6) 草壁久四郎『映像をつくる人々と企業—岩波映画の三十年』みずうみ書房、1980、p.183.
- (7) 渡辺裕『考える耳 記憶の場、批評の眼』春秋社、2007、pp.129-133。「日本民俗舞踊シリーズ」は1969年より「日本民族舞踊シリーズ」に名称変更。作品数は十四と多くはないが、1961年「火の島」が芸術祭賞を受賞している。
- (8) 2009年12月に中在家を訪ねた際、御幣は五色のものだったが、映像の幣は白である。
- (9) 武智鉄二『伝統と断絶』風塵社、1989、pp.8-83.
- (10) 鈴木忠志「日本社会の変化と伝統の変質」『演劇人 12』2003、pp.71-79。さらに鈴木は、90年代における携帯電話やインターネットなどのITの普及によっても日本人の空間感覚や身体感覚が変わったと指摘している。